

電友会四国連合会報



第 14 号
76. 4

目次

電友会のみなさんへ……………	四国電気通信局副局長……………	二
今後の建設計画の特徴……………	四国電気通信局文書広報課……………	二
電電公社 人事異動……………		三
昭和五十一年度恩給改善政府案きまる……………		四
公社退職者の生活現況調査結果……………		四
公社日より・共済会日より……………		五
余栄・訃報……………		六
蝦夷の旅(一)……………	藤田基孝……………	六
特集……………辰年は語る(二)……………		七
浅川 祝・井上岩志・乃万 弘・藤本虔一郎・堀内哲夫……………		七
俳句……………瓢湖の白鳥……………	有井一 硯……………	八
会員消息……………		九
福田 福松 金丸 正雄 出口 秀夫 佐藤 清明……………		九
川原 真市 藤原 英美……………		九
短歌……………北国の旅……………	藤田基孝……………	一〇
表紙のことば……………	荘野丹秀……………	一〇
随筆……………		一一
田中 義隆 福本 豊 栗田 信雄 玉川 都夢……………		一一
俳句……………	横山藏峰・大野峰生……………	一二
編集後記……………		一二

電友会のみなさんへ

四国電気通信局副局長

江 口 茂



このたび、ご当地に勤務することとなりました。四国は、私にとって初めての地ではありますが、美しき自然と豊かな人情に満ちたこの土地に勤務できますことを、心から嬉しく感じております。

四国の電話加入数も一〇〇万を超え、人口百人当りの普及率も約二七になり、サービスレベルも世界の先進国に比し、何らの遜色もない状態になって参りました。こうしたレベルに到達できたのも、皆様方、諸先輩の幾多の労苦の賜であることを痛感し、ここで改めて、先輩各位のご努力に対し、敬意と感謝の意を表する次第であります。この成果を受け継ぎさらに発展させていかねばならぬ、私達の責務を考えますと、その責務の重さに肅然とする次第であります。

電友会につきましては町田前副局長からも伺っておりますが、関係各位の皆様のご努力により、飛躍的な発展をされたと承っております。我々としても喜ばしい限りであり、今後のご順調な発展を念願するものであります。

先輩各位を含めて私達が、電信電話事業の創立の当初より念願として、鋭意努力して参りました積滞解消の状態が間もなくこの四国においても到達できる見通しになって参りま

した。まことに喜ばしい限りであります。私達はさらにこの状態を維持改善し、更によりよきサービスの提供を計らねばならぬと考えております。永年の公社の経営はこの積滞解消を目標としておりましたので、この目標が達成できた以上、新たな視点において、経営の見直しを行っていくことも必要になると思っています。

一種の転換点にさしかかって来たとも云えます。私達の仕事にも、とまどいと試行錯誤があるかも知れません。電友会のみなさまには、暖い眼で後輩の仕事に対して、ご助言をいただければ、まことに有難いことと思っております。

公社は今や超大企業に成長いたしました。大きくなればなる程、外部との接触面積が広くなって参ります。思いもかけぬ所で、公社との関係を云々され、公社の事業活動の与える有形無形の影響力の大きさに、我ながら驚く経験をしたことが何回もあります。

電友会の皆様にお願いたしましたことは、こうした公社と外部との接触の際の潤滑油としての役割を果たしていただきたいということです。今後我々の事業は今迄以上に地域社会の方々等との接触が不可欠となり、国民の要望を積極的につかんでいかなければならないと考えます。こうした場合、先輩であるとともに部外の立場からご助言をいただければ、まことに幸せであります。我々としても、出来るだけ皆様方に事業の動向をお知らせして、先ず第一に皆様方に、公社の立場をご理解いただくという努力をしてまいりたいと思っております。

私個人としても四国へ参りましたからまだ日も浅いのですが、できるだけの機会に諸先

輩にお目にかかる機会を得て、ご助言を賜れば誠に幸せと考えております。

今後の建設計画の

特徴等について

四国電気通信局 文書広報課

公社発足以来の目標は「すぐつく電話」です。ぐつながら電話の実現でしたが諸先輩の御功績と職員のためまい努力の結果昨年八月には加入電話数が全国で三〇〇〇万を突破し四国でも昨年九月一〇〇万を突破しました。現在推進しています第五次五か年計画は、①

住宅用電話を中心とする加入電話の申込積滞の解消、②手動式局の自動化、普通加入区域の拡大などの過疎対策等、国民福祉の向上に重点がおかれておりましたこの外にも情報化の進展に即応しデータ通信、画像通信の開発拡充をするなど将来におけるわが国の経済社会の発展に積極的に寄与することを目ざしてまいりました。ところが計画策定後の公社をとりまく情勢の変化は著しく特に昭和四十八年秋以来の急激な経済諸情勢の変化などでこの計画をそのままの形で進めることはむずかしくなりました。このため情勢の変化を考慮し公社は国民のための電信電話事業を運営し発展させるとともに今後のわが国経済の安定成長との調和をはかる観点から、いわゆるナショナルミニマムの考え方を勘案しつつより福祉重視の計画をするように見直しを行ないました。この見直しの基本的方向につきましても達成しなければなりません。住宅用電話を中心として五十一年度二六〇万、その後も毎年同程度の電話を架設する予定です。②地方中小局の普通加入区域の拡大や手動式局の自動化、地域

良いサービスは健全な経営から
 前述の計画を進めるにあたっては事業の収支が健全であることが前提です。そこで公社の事業収支の現状と今後の見通しについて述べさせていただきます。諸先輩の皆様は既にご存知のとおり公社は四十九年度は約一七五〇億の赤字となりました。この原因は、最近における利用回数のない電話の増加により事業収入が伸びないことや、利子などの負担の増大で収支が悪化傾向にあたったうえに四十八年秋以降の経済諸情勢の変化に伴う人件費の上昇で支出が大幅に増大したことで経済の停滞による収入の伸び悩みによるものです。

今後の計画の特徴



集団電話の一般化など過疎対策も既定計画どおり推進することとしています。③終日利用できる公衆電話を重点に各種公衆電話を一層充実したり④老人用電話の増進を推進するなど福祉重視の計画としています。

最近の事業収入の動向からみても赤字額は更に増えるものと予想されますので五十年年度末の累積赤字は約四九〇〇億に達するものと見込まれ、このまま推移しますと赤字額はますます増大するものと思われれます。したがって、このような赤字経営では先に述べました計画を円滑に遂行することはできないばかりか電信電話事業を運営し発展させることが不可能となります。そこでどうしても安定した事業収入が確保され健全な経営の基礎が確立されることが必要であり、この目的から次表の「電話電報料金改正案」を今国会で成立させていただき、六月一日から実施できるような努力を重ねております。今後公社は一層経営合理化に努め技術革新による建設投資額の節減や、経費節減などの各種施策に取り組んで行くこととしております。

電話・電報料金改正案

料金区別		改定内容	
電話料金	基本料	現行料金の2倍。ただし昭和51年度中は50%の改定にとどめる	
	通話料	現行の通話料の単位7円を10円に改定	
	設備料	現行の5万円を8万円に改定	
電報料金	通常電報	基本料(25字まで)	現行料金の2倍(300円)に改定
		累加料(5字増すごと)	現行料金の2倍(40円)に改定
	慶弔電報	基本料(25字まで)	現行料金の3倍(450円)に改定
		累加料(5字増すごと)	現行料金の3倍(60円)に改定

△電電公社 人事異動(敬称略)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 田北 | 嶺北 | 田野 | 南野 | 土佐 | 土佐 | 伊野 | 阿野 | 引野 | 讃岐 | 高瀬 | 新居 | 三瓶 | 内子 | 北条 | 室戸 | 窪川 | 佐川 | 阿波 | 脇池 | 鳴門 | 土庄 | 三松 | 観音 | 坂本 | 壬生 | 伯方 | 御庄 | 宇和 | 高知 | 松山 | 香川 | 高知 | 愛媛 | 四国 | | | | |
| 井杉 | 杉野 | 野国 | 野月 | 佐野 | 野野 | 南野 | 野南 | 田野 | 讃岐 | 瀬木 | 居木 | 瓶子 | 子条 | 条電 | 川戸 | 川戸 | 川戸 | 池田 | 池田 | 門田 | 庄松 | 松本 | 寺松 | 音松 | 生寺 | 川出 | 方川 | 庄川 | 和電 | 高知 | 山電 | 山電 | 香電 | 高電 | 媛電 | 国電 | | |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
-
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 福山 | 野田 | 岡田 | 浜野 | 青野 | 藤野 | 森野 | 作野 | 福道 | 平井 | 吉田 | 幸田 | 佐藤 | 永吉 | 阿部 | 一松 | 有松 | 宮崎 | 白石 | 地崎 | 関家 | 北本 | 芳本 | 原本 | 馬本 | 井上 | 坂上 | 田中 | 有田 | 永野 | 原野 | 一木 | 川下 | 守井 | 江家 | 江口 | 江口 |
| 大登 | 隆藏 | 広太郎 | 峰太郎 | 峯太郎 | 忠美 | 貴美 | 孝美 | 孝美 | 克己 | 廣己 | 進己 | 孝己 | 孝己 | 一孝 | 幸久 | 憲久 | 賀久 | 典久 | 祐久 | 哲三 | 伊三 | 清三 | 正好 | 正三 | 虎三 | 泰三 | 昭三 | 淳三 | 博三 | 一三 | 淳三 | 博三 | 一三 | 夫三 | 茂三 | 茂三 |

昭和五十一年度

恩給改善政府案きまる

五十一年度の恩給改善政府案は十二月三十一日の閣議で決定するに至った。改善措置のうち主なものは次の通りである。

一、恩給年額の増額

これまでの恩給年額は、公務員給与の平均改善率により一律に増額する方式をとってきたが、今回はこれを改めて、昭和五十一年度における公務員給与の改善傾向(平均一〇、七%)を分析した結果に基づいて、恩給年額の基礎となる仮定俸給の年額を約七%ないし一一、五%増額しようとするものである。

(例) 二一号俸(兵の仮定俸給) 一一、五%

二五号俸(軍曹) " " 一一、四%

四七号俸(大尉) " " 一一、七%

六〇号俸(大佐) " " 一〇、二%

七九号俸(大将) " " 七、一%

なお、傷病恩給の年額は、従来から仮定俸給を基礎とせず、傷病の程度に応じてその年額が定められているが、今回は、この年額をそれぞれ一一、五%増額することとしている。

二、普通恩給等の最低保障の改善

長期在職者

六五才以上 四二万円を五五万円に

六五才未満 三一万五千円を四一万二千五百円に

三、長期在職者の老令者等の恩給の算出率の特例

八〇才以上の高令者に対する恩給の算出率の特例措置を、七〇才以上の老令者および七〇才未満の妻子、傷病者の恩給にもお

よぼす。最短年限を超える一年につき三分の一(三分の五を限度)八〇才に達すると三分の一〇となる。

四、実施時期の繰り上げ 七月実施

(参考) 旧軍人仮定俸給表

階級	現 行 額	改 訂 額	率
兵	五九七、七〇〇	六六六、四〇〇	一一、五%
軍曹	六七一、〇〇〇	七四七、七〇〇	一一、四%
大尉	一、四一七、五〇〇	一、五六八、六〇〇	一〇、七%
大佐	二、二六五、八〇〇	二、四九七、六〇〇	一〇、二%
大將	四、一〇三、二〇〇	四、三九五、二〇〇	七、一%

なお共済年金の改善措置も従来の経験に徴すると恩給に準じ行なわれるものと思われる。

公社退職者の

生活現況調査結果

公社では四九年九月から十月にかけて、公社退職者で年金又は恩給を受けている人約二万五千人の中から無作為で四〇〇人抽出しこれらの方に調査票を郵送しアンケート方式による無記名回答をもらいました。調査票には、住宅・家族・老人ホーム・健康・経済・就労・生きがい等生活の各分野にわたって選択式で答えてもらいました。

調査票の回収は四〇〇人中三七八人(回収率九四、五%)で東京都二三区内(一七、五%)東京都下(三、四%)十大市(一八、五%)その他県庁所在地(一四%)その他の都市(三八、六%)町村(七、九%)。

一、住宅状況

(一) 「持家者」は親から自家であるものを含めて約九割で圧倒的に多い。

借家、借間居住者は七、七%である。また自家取得の時期については、持家者の約八割が在職中または退職の直前、直後となっている。なお、借金しないで自分の家を持った者が取得者の四割もあることは注目値する。

(二) 「住いについて困っていること」との問に対して「特になし」が約六割でそのほとんどが持家者である。他方困っていることと答えた者については「家がいたんできた」が最も多く一六、一%をしめ次いで「家が狭い」(九%)の順である。

二、家族状況

(一) 現在「配偶者あり」が八四、七%、子供ありが九四、四%と圧倒的に多い。なお家族構成のうち特に「ひとり暮らし」の者は全体の二、六%だが、その六割は子供なしである。

(二) 子供と別居は二一人で全体の三二%である。

三、老人ホーム

現在老人ホームで暮している者は回答者には一人もいないが、入所意識のある者は全体の一三%で、そのうち「一人だけになったとき」「身体の自由がきかなくなったとき」と将来利用したいとする者が殆んどで「すぐ利用したい」と云う者は二人と非常に少ない。「利用したくない」と積極的に答えた者は、全体の五割をしめている。また「まだ考えていない」「わからない」としている者が三六、二%である。

四、健康状態

(一) 「健康である」「普通である」が全体の約三をしめ、「あまり健康とはいえない」が三、一五%「寝たきり」及び「寝

(二) 疾病中最も高率をしめるものは高血圧で全体の約三割、次いで胃腸病、眼疾患の順となっている。

(三) 医療費については、年間一万円以内のものが六四%と多い。また年間一〇万円以上のものが三、七%いる。

五、経済状態

(一) 収入面についてみると「年金・恩給」以外の収入としては「自らの事業・就労」によるものが最も多く、この他に「財産収入」「仕送」等もある。なお「年金・恩給」のみの収入によっている者は一、二八名(三六、四%)である。

(二) 支出面での主なものは「ほとんど自分(配偶者を含む)の生活費」(六五、二%)としているものが最も多く、次いで「自分の生活費のほか、扶養費」(一七、九%)、「半分程度生活費等」(一六、八%)などとなっている。

(三) 生活程度については現在の収入で「生活できる」三四、四%、「どうか生活できる」が約半分の五二、一%となっている。また「生活できない」としている者一三、五%のうち子供、親せき等からの援助のない者は七% (一、九%) となっている。

六、就労状況

(一) 「勤めている」(三七、六%) が最も多く、仕事の内容は「管理業務」「一般事業」「専門技術」の順である。

また勤務態様は常勤が最も多く八八、七%となっている。給与額は月額五万円〜一〇万円が四一、五%であり、五万円以内は一六、九%である。「全く働いて

いない」としている者が約三割で、理由は「身体が悪くて働けない」「仕事が見つからない」「働かなくてもよい」等となっている。なお、「仕事が見つからない」としている二二人中二〇人が会社等に勤めたいとしており、その半は雑務でよいとしている。

七、生きがい

(一) 退職後の就労について尋ねたところ「働けるうちは働く方がよい」「働く方が身体によい」「働くことは楽しいことだ」で九三、七%となっており、大部分は働くことを望んでいる。

(二) 今の生活で楽しみにしている事は「家族とのだんらん」「テレビラジオ」「盆栽・畑仕事」「旅行」などが多いが、多岐にわたっている。

(三) 老後を幸せに送るために最も重要なこととは、「健康」と答えた者が八三、九%と一番多く、次いで「経済的に不安がないこと」(一〇、〇%) などとなっており、健康がいかに重要かが伺える。

公社だより

生きている証拠を

年金受給者の資格確認のために戸籍抄本または住民票の写を期日までに出して下さい。おくれると、年金の支払をうけられなくなることもあります。

○抄本等は四月一日以降の証明であること。

○提出書類の余白に年金証書の記号番号と自宅電話番号を記入しておくこと。

○提出期日 四月一〇日必着のこと。

○送付先 四国電気通信局職員部厚生課。(松山市一番町四丁目三)

共済会だより

医療共済掛金等の改正について

この制度はご承知のとおり、共済会が社会福祉事業の一環として、電電公社の退職者と退職当時の配偶者および被扶養者が、公社ならびに郵政の医療機関を利用された場合、その医療費の負担を軽減するもので、昭和四十八年四月一日創設以来全国で利用された方は、一万九千名におよび、利用者の方々から大変喜ばれているところでございます。

しかしながら、収支の面をみますと、掛金のみでは到底まかなうことができないため、共済会から毎年多額の補助をしており、医療費のみでも二億九千万円に達しました。

共済会としましては、加入者の方々のご負担をできるだけ軽減するよう努力しておりますが、度重なる医療費の値上げと、予想をはるかに超える医療機関利用者の増大等により、



共済会として負担の限界を超える結果となり、今回やむをえず左記のとおり、掛金等の改訂をお願いすることになりました。

今後共、電電職域退職者の相互扶助を深められ、この制度の存続、発展にひきつづきご協力くださいますようお願いいたします。

記

掛金 (一人年額)	現 行 改 正 備 考
三、八〇〇円四、七〇〇円	
予約金割引率	一〇%
医療費負担率	三分の一
実施年月日	昭和五十一年四月一日
	二分の一
	八院料は現行のままです

なお、四十九年以降電電公社を退職され、医療共済に加入されていない方については、本年四月一日から六月三十日までの期間に限り、再加入の機会がつけられましたので、加入ご希望の方は、共済会四国支部または最寄りの営業所にお申し込み願います。

(電気通信共済会四国支部福祉相談所)
電話松山(〇八九九)二一九五三一

余 栄

ご逝去されました左記の方々に對し多年電気通信事業に貢献された功績により叙位叙勲が授与されました。

- 勲八等瑞宝章(五〇、四、六)
- 故 向井 義雄殿(鳴門)
- 勲八等白色桐葉章(五〇、四、二三)
- 故 岡崎 秀行殿(松山)
- 故 石井 徳藏殿(壬生川)
- 正七位勲六等瑞宝章(五〇、五、一)
- 正七位勲六等瑞宝章(五〇、七、三〇)
- 故 山本 正信殿(松山)
- 正七位勲六等瑞宝章(五〇、八、一一)
- 故 堀井時四郎殿(松山)

訃 報

次の方が亡くなられました。謹んで哀悼の意を表します。

氏 名	死亡月日	所 属	行 年
鈴木清四郎殿	50・12・10	六二	松山
百田 勝殿	50・12・11	六五	〃
竹村 辰猪殿	50・12・25	七二	高知
日道 盛行殿	51・1・3	七六	八幡浜
平林 義康殿	51・1・31	六三	土佐清水
清水重太郎殿	51・2・5	七六	八幡浜
南條 兵太殿	51・2・17	七一	松山

隨 筆

蝦夷の旅(一)

藤 田 基 孝 (松山)

最初に私かえぞを訪れたのは退職の翌年だったから早や十二年前となる。この度は端々をゆつくりと見て歩くつもりで一か月間の旅を見積って六月二日に家を出た。

青森行特急ゆうづるの寝台車はまるでフラダンスの様な凄く揺れに眠れなかったが、三日の早朝函館の土を踏む。路傍に草木の苗を並べ、アララギをオンコと呼びて売る媪あり、立待岬行きの電車で知り合いし翁は啄木に緑りありと聞いて、貧を支えし啄木の妻節子の苦しみを語りながら「われ泣きぬれて蟹とたはむる」と詠みし啄木の真意を歌碑の前で説明してくれた。

丘の上に建つ女子修道院の内部に入るを許されたが、磨き立てられし静寂な堂内には、処女のまま一生を神に捧げるあの清純なる瞳には遂に逢うことができなかった。天六日の朝小樽から積丹行のバスに乗る。天

を突く巨大なる陽根形の奇岩や押せば倒れ相に根本を浸蝕されし妖怪の如き怪岩の連なる海沿の道は幾度か深き霧の幕に包まれたが二時間余りて突端の余別に着き、鳥賊釣船の居る海岸の茶店で食った鳥賊刺は美味かった。

札幌の地下鉄はゴムタイヤでコンクリートの上を軽やかに走り、無人の改札口では一寸とまどった。

九日早朝、稚内から海上三時間余で憧れの礼文島に渡る。私は青年の如く胸をときめかせながら、旗を持ち出迎えてくれた若者について明るいユースステルに入る。蟹のはさみの様な半島のうち、スコトン岬は遙かに遠く伸びて内側に湾曲しその先に胡嶺島が見える。スコトン岬の巖頭に立てば渺々たる海原にトドが魚群を追いつつ流水に乗って移り棲むと言うトド島が一つ青く霞みて浮んでいる。

渚に降りようと岩を這えば、白き蓬が岩の割れ目に萌えて居たのでノートに挟む。

長き冬の去りて一斉に萌え出でし青草は岬の丘に瑞々しく広がる。私は思わずその草を深々と窪めて寝転んだ。瑠璃色の空に七二歳の魂も吸い込まれる思いに。

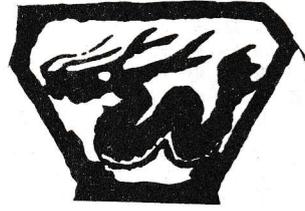
いつしか日は西に傾き宿にもどるにもバスは無い。湿れる岩の壁に群がり咲ける艶やかなミヤマオダマキに心を慰やしつづ磯の道をとぼとぼ歩けばスコトンの浜に網を引く漁夫に逢い「鮭は天ぷらが一番じゃ」とピチピチ泳ぐる五、六寸の鮭を十尾ほどビニール袋に入れてくれた。只とは言え旅人の私には少々荷になったが大虎杖の茂る道を根気よく歩いて、トド島に赤き日の入る頃漸く私は宿に戻ることができた。

夕餉の食卓の「鮭天」を若者等と共に賞味したのは勿論のことである。(つづく)

特 集

辰年は

語る(二)



年をとれば眠りは長くとれ

浅川 祝 (松山)

老人の繰り言に「夜良く眠れない」「朝早く目があいて困る」という話をよくきくのである。そして気の小さい老人はいつまでも身もだえし夜の明けるのを待ちわびるし、ずうずうしい老人だと、さっさと起き出して歩きまわり家人の眠りを妨げて皆から小言をきくようになり、どちらも困ったものだといわざるを得ない。

いったい年をとるとそう眠りが短かくてすむものだろうか。どうも生理学的にみてオカシイと思われる。年をとればとるほど昼間の活動による疲れはひどいはずだし、その恢復も余計の時間が必要はなはずである。若人より老人のほうが休養時間が多く必要なのは当然の様に思う。私は現に八十五才になる会社重役のお話に睡眠は八時間以上といったのになるほどと感心した。疲れも深く治るのに睡眠が長びくのは理屈に合っている。

短い眠りで間に合うというのは隠居生活で

一日中頭も体も休ませているせいで、まるで起きていたのか寝ているのかわからないような生活をしたのでは眠りが短いのは当然である。だからいつまでも心身を適当に使うことが長生きのコツであるし、いつまでも万年青年の老人として、疲れて夜は深く長く眠り長生きをしたいものである。

偶 感

井上岩志 (松山)

「辰年の生れは運勢がいい人ですよ……」今は亡き母の口ぐせであった。多分私に対する励ましの意味もあったのであろうが……。然し私は子供心に運勢がどんなものか知るよしもなかった。

「春になったら還暦のお祝をしますか」女房にそう云われてみて、うだつの上らなかつた自分も、もう六回目の辰年を迎える年になったのかナーとすぎこしかたが思いやられるのである。

思えば昭和十八年二月上海から南方に転進翌年一月只一人病氣帰郷療養を命ぜられた身とはいえ、行動を共にした上官や戦友の殆んどを失い、戦に殉じた人達への追憶と取り残された者のみのもつ呵責に長い間苦悩したのである。

さて私は運命論者ではない。然し乍ら生死の境を縫うようにじぐざぐした者にとって、これはどのように解釈したらいいのであろうか。

私は二男一女の父親で、孫も男児が一人。平凡ではあるが家族が皆気持よく、満ち足りた毎日を送っている。

辰年生れは、運勢がいいのであろうか。年のせいか私は時々そんなことを考えるようになった。

ともあれ、私は今年が年男である。「今年はいいことある」とし元旦の空晴れて——」云々——。名句がある。

私は平凡なありきたりのなかで、妻や子供と共に第二の人生を大切に過したいと思っている。

羅店鎮の激戦

乃 万 弘 (松山)

昭和十二年八月、上海事変に私は歩兵砲隊の初年兵として出征しました。私の分隊長は召集の伍長でした。編成されて支那大陸に上陸しても分隊長とは何となく心がとけ合わない日が続いていたとき、あの有名な羅店鎮の激戦で、晝は壕を堀り夜は警戒にあたり、身心ともに疲労困憊、今日あつて明日ない命、いずれ死ぬなら早く死にたいと思い、弾が飛来する中をふらふら歩いていて指揮班長に叱られたこともありましたが、分隊長が「目標左前方一軒家の右端」と号令がかかり、私は四番砲手だったので左端を照準し射ったこともありましたが、その後分隊長とは心が離れるばかりでした。ところがある日、連隊本部へ伝令を出すよう砲隊長から命令があり、分隊長は私の同年兵に「三日前に露営した地点(約五軒後方)に本部があるから永津部隊長にこの報告書を届けてくれ」と再三云うていたが同年兵は返事をしぶっていたので「乃万が行ってきます」というと「行ってくれるか」と分隊長は喜び、持っていた日本刀と拳銃を私

に貸してくれたので、私は肩章をはずし拳銃は撃発装置にして右手に持ち人影のない不気味な土民の集落を二か所通過しようやく本部に到着、永津部隊長に手渡し任務を果しました。それから分隊長との心はとけ合うようになりましたが五日後の夜、私は警戒に立って流弾にあたり、右大腿部盲貫銃創で内地還送になりました。

辰年生れの私は意地張りやであったことを今更ながら反省している次第です。

文字に思う

藤 本 虔一郎 (松山)

電話印刷に勤め毎日文字に囲まれてみると今更人名や地名の読み方の多いのに驚いている。地方によっても異なり、字典にもない様な読ませかたをしているものもある。折角立派な名前を付けてもらっても、ともに読んでもらえない人も多いことでしょう。当用漢字が制定されているからだんだん難名さんも少くなるでしょう。

私は中国に渡っていたので中国語も多少カジっており懐かしさでテレビの中国語講座にチャンネルを合せることがあるが、文字が簡略化されておりサッパリ判らない。講議をきいてはじめて思いだす。おもいきった改革を行なったものである。中国では横書の場合右から読ませていたが日本の場合は左右両方があり読みにくい。また漢字の読み方が多いので高校生で新聞見出しにある程度の単語でも読みや解釈の判らないものがある程度である。それに最近では書体の雑なものが多くなった。学校で学習することが多く「読み」

「書き」という基本的なものがなおざりにされているように淋しい。もっと大切にしたいものである。たしかに昔と異なり悠長なことはいっておれないが、難しい日本語として若い人達から敬遠されないよう、時代に合った簡素化はできないものだろうか、など毎日文字に悩まされているとこんなことを思う。

辰年は語る

堀 内 哲 夫 (松山)

昭和も半世紀をむかえ今日生あるを歎びと想っている。回顧すれば昭和七八年頃からの日本経済の不況により当時の若者はこぞって軍人を志望し軍隊へと故郷を出ていった。

私達辰年生れも其の頃適令期の若者に成長していたので陸軍へ海軍へと志願し遠くは満州まで出征して行った。私もその仲間の一人で海軍軍人を志願して佐世保海兵団に入隊し奉公していた。時あたかも昭和十二年支那事変が勃発し急速に戦時色が濃くなり昼夜の別なく猛訓練で戦時体制を整えて遂に大東亜戦争へと発展していった。私達辰年生れの多くの者は軍隊の下級幹部として活躍していた。私も海軍軍人の下級幹部の一人として戦艦榛名に乘組み機動部隊として戦列に加わり東はハワイ西はインド洋と東奔西走祖国防衛に奮闘した。ちょ戦においては成果を挙げたが経済力豊かな大国には抗し得ず遂に敗戦の憂目を味う結果となった。此の戦により私達仲間の大半は太平洋や南の島で青春を散華していった。其の中にあつて私は生き永がらえて戦後の復興に精出し現在も微力ではあるが社会のた

めに奉仕しております。

人生も五十才の峠を越え下り坂を除々に歩いている事も事実である。今年日本の人口の半数は戦後派で占める事になったと聞いている。私達戦前派から見た現在の世相は不満が多い。その中であつて現代の若者は勇気がない、責任感がない、礼儀に欠ける、物資愛護心がない等々腹立しき事が多いが、現代の若者にも見習う事も多々ある事も事実である。私達も時代の流れにしたがい戦前戦後派の断絶をなくするためにはあらゆる機会をとらえて若者との交流をはかり共に社会のために奉仕したいと思つている次第です。私は今日此の美しい国、経済大国として世界の国々より賞賛される日本に今日生あるを歎びとするものであります。



瓢湖の白鳥

有 井 一 硯 (松山)

先きがけて来し白鳥の十羽ほど

吹雪く日の白鳥湖心にて遠し

五百羽の白鳥浮寝湖も風ぐ

湖風を得て白鳥の向ひ翔つ

白鳥に声かけ寄せて餌を撒く

会員消息

福田 福松 (三津浜)

七六才 三二年退職

大日日本電線KK松山連絡員として専ら電
電公社との連絡にあたっておりましたが昨年
一月会社を辞めさしてもらい目下家内と二
人元気で余生を楽しんでいます。

長男は大阪にまた長女は岡山にとそれぞれ
遠くに住んでいますので機会をみてはたずね
るのを楽しみに思っています。

趣味は小旅行と釣、それに散策。歩くこと
は私達の年令になると最も適した運動です。
無理をしなくてそのうえ金を使いません。こ
れに越す健康法はないと信じ今後もずっと続
けるつもりでおります。

長い連絡員生活中も仕事から公社ともつな
がりももて、出てゆく都度皆様から色々と
親切にして貰ったご好意をつくづくと感謝し
ております。また年金も毎年増額され夫婦暮
しには特に困るといふこともなくなりました。
難いことだと感謝しています。

これからも健康に十分気をつけていつまで
の寿命かわからないが、せいぜい長生きをす
るつもりでおります。

金丸 正雄 (鳴門)

六七才 四二年退職

鳴門電報電話局を最後に東洋電機通信工業
株式会社徳島支店に就職、線路工事長として

あちらこちらの現場を走りまわっておりまし
たが家事の都合で四九年夏退社しました。
その後は古巣の鳴門報話局線路宅内課で手
伝をさして貰っておりましたが辰年の新年か
らまた古巣の東洋電機通信工業徳島支店に戻
り張切っております。

趣味と別々にはありませんが暇があつた
ら海に又川にと釣に出かけております。残念
なことはいまだ大物を釣った経験がありません。

子供も六人ありますが、皆外に出て家は妻
と二人暮しです。おかげさまで二人とも、い
や子供達も孫達も皆そろって健康です。これ
こそ何にもまさる幸せと思つて感謝の毎日を
送っています。

出口 秀夫 (徳島)

一、五七才 四九年退職

二、母・妻・三女の四人暮らし

三、日常の生活

勸奨退職で年令が比較的若かつた関係もあ
つてか四国通建徳島支店に再就職して電話設
備の建設作業の第一線で元気に活躍しており
公社関係の皆様には何かとお世話になっており
ます。毎日午前九時頃には自動車のハンドル
を握つて電話工事現場の安全パトロールに出
かけます。安全作業の点検、指導が私の職務
になっております。今後とも元気で災害無事故
を目標に毎日有意義に過ごさう努力する
つもりです。

四、趣味・魚釣・小唄

仕事の関係もあつて落ちついて魚釣・小唄
も十分やれないが秋(九、十一月)には沖の
州突堤で「チヌ」釣を楽しんでおります。今

年もそれをたのしみにしております。小唄は
公社在職中同好の人々と約十年間お師匠さん
に月二、三回習っていましたが退職後は疎遠
になって現在休止中ですが家庭で入浴時間湯船
の中で毎日二、三分うなつて気分転換を
しております。

五、その他希望意見等

退職後まだ日も浅く再就職していること
もあつて研究不十分で別にありませんが連
合会事務担当者の御苦労に感謝するとともに
に会報内容の一層の充実を期待して
おります。

佐藤 清明 (鴨島)

一、六五才 四三年退職

二、日常生活

退職して早八年、東の間の夢のようです。
四四年四月から現在まで共済会徳島営業所で
勤めています。年をとつてからの勤めはみた
目には大変なことのようにも永年馴れたこと
でもありこれが自分の健康法に繋がっている
のだと、何時も感謝の気持ちで職場へ通つて
います。

三、家族状況

妻は五年前死亡、長男および三男は家から
通勤しています。長男の嫁は家業、孫は男と
女で幼稚園と保育所。皆そろつて健康に恵ま
れ晩には集つて一刻昼間のできごとなどを話
しあつて楽しんでます。

四、趣味 等

旅行と盆栽です。四反ほどの農業をしてい
る関係休日等は家族揃つての日曜百姓とい
うところ。近い内に勤もやめさせてもらい、機
会をつくつて自由な旅行、盆栽いじりなどで

仕事で働く運動を遊ぶ運動にかえ、残る人生を楽しく大切に過したいと思っています。

五、その他

年金もありがたいことに毎年増額され感謝しています。希望としてはやく公務員と同様四月からスライドされることを願っています。

川原真市(徳島)

- 一、六〇才 四八年退職
- 二、健康状態 至って健康である
- 三、家族状況 妻 生花教師
- 長男 阿波銀行勤務
- 次男 電電公社員
- 長女 神戸女子短大在学

四、日常生活

徳島市内であるが眉山が近いので、山の鳥が朝早くから家の附近で鳴いている。その声をききながら七時半自転車を出て午後二時まで勤務。生長の家の県連合会副会長として県下を月五回布教にまわる。皆さんから喜ばれる生活を送っている。

五、その他

徳島青果商業協同組合に勤めている。徳島市中央卸売市場では電電公社の出店のように云われているが、喜んで用件を受け電話局へでかけることもある。電電公社の「電信電話」やPR関係の新聞など送ってもらえればもっと宣伝をしてあげられるのにナーと思っている。年金は五月付で退職したためちよびり損をしたように思っているが毎年増やしてもらって有難いことだと思っ

ている。

藤原英美(徳島)

- 一、七五才 三五年退職
- 二、家庭状況 妻および長男夫婦
- 三、趣味 読書・囲碁・旅行

昨年は私にとって誠に意義ある年であった。即ち金婚の年、平均寿命に到達の年、そのうえ年末には五十余年間電気通信事業一筋に生きて来た愛する職業にピリオドを打つことにした年であったからである。心から感謝と満足をしている最近である。これには健康と誠の心をもって何事にも処して来た賜であると確信している。

退職後は老後の健康保持のため、毎早朝清浄な空気を満喫しつつ市内を自由に六千歩を標準に散歩している。これには思わぬ悦びを拾う。それは市内各道路に施設されている公社のマンホールのことである。どのマンホールも皆多少私に関係しているからでその時々過ぎ去った思い出が蘇り、特に忘れ得ないのは大正十四年末に施設されたマンホールである。それは私がその年の六月に結婚し、大阪での新居が決らぬまま別居生活を余儀なくされ、当時の上司の温情で徳島へ工事出張を発令していただき新婚生活を満喫してもらった年である。以来五十年間施設と共に生きて来たのである。そのマンホールの上には立った時は感慨無量である。然し人生には限りあり、施設物は公社と共に永遠に生き続けるであろう。

余生を健康と楽しみを、孫達と手をつなぎあつて。

短歌

北国の旅

藤田基孝(松山)

この先に日本の地なくただ一つ白き巡視船動くともなし

はらからに呼びかけながら樺太に果てし処女らの碑の前に立つ || 電話交換手 ||

汽車の出ぬ待合室に怒るあり眠るもありて客らひしめく || 国鉄スト ||

木造りの桶より豊かにあふれくるみちのくのいでゆ飲めば酸ゆしも

みほとけは温泉の湯気にそぼぬれて供えし陰の古き新しき

表紙のことば

莊野丹秀(内海)

遅れ咲きの白椿一輪、切取って床にいけようかと思つたが切取るのが名残りおしくて散るまで庭で咲かせた。

「花のいのちはみじかくて」

苦しきことのみ多かりき
ふとそんな人生感が胸をよぎって
いた今日のごろ。

随

筆



老人扱い

田中義隆 (松山)

新聞やテレビが報道するとき、六十才を越すと老人扱いをする。むろん一般的なことから、自分にかかわりはない。しかし、もし直接に老人扱いをされたら、どうだろうか。たとえば、電車に乗る。混んでいて空席がなく、あいているつりかわを持つ。すると、目の前にすわっている学生が、不意に立ち上って「どうぞ」という。座席をゆずられたのである。

皆さんには、こうした経験はあるまいか。ある方は、そのとき、どう思われたらどうか。そして、どう反応されたらどうか。

自分が年をとっても、案外にそうは思っていない。だが、学生に座席をゆずられるのは、老人と見なされたからである。学生がどう見ようと、とがめるわけにいくまい。しかし、シヨックには違いないだろう。

続いて、どう反応するだろうか。すなおに厚意を受ける人があり、辞退する人がある。人それぞれで反応が異なる。そして皆さんは、どちらだろうか。

街を歩いていて、見知らぬ人に声をかけられるとき、もう「おじさん」ではない。もちろん「にいさん」でもないのである。

余生もまた楽し

福本 豊 (小松島)

人生航路の最終コースをたどりながら、公社を離れて十二年の歳月をつつがなく経過したが、この間に在職中は余暇少なく思うに任せなかった読書、旅行を心ゆくまで楽しめたことに望外の喜びを味わっている。

読書は特に歴史を愛読して、日本史からさらに東洋、西洋史をひもとき、古今東西を通じて文化の流れを探り、栄枯盛衰常ならぬ民族興亡の事跡に思いをめぐらせて深い感動をうける。旅行は全国各地を周遊してすぐれた景観もさりながら、それぞれの地方の風土につちかわれたこまやかな人情の機微に触れて、ほのぼのとした旅情を覚えるのであった。日常生活にあつては、ざる蕎麦、プロ野球のナイター放映に興じて、庭の植木や草花の手入れなどのほかは、たそがれ迫るころゆうげの食卓でもむろにたしなむ適量の晩酌のいとおしさに、最高のしあわせを感じている。

昔から酒は百薬の長といわれているが、ギリシャの哲学者アナカルシスは、「酒の一杯は健康二杯は快樂三杯は放縱最後は狂気」といっている。酒豪の人と定評のあった元総理故池田勇人氏はガンで死去される直前に、「水で薄めてもダメか」と主治医に酒をせがんだというエピソードを残しているが、こよなく酒を愛する人の心情を端的に表現していて微笑を禁じ得ない、しかしやはり酒は心してほどほどにとどめたいものである。

マコちゃん

栗田信雄 (松山)

マコちゃんは近所に住む小学一年の男の子である。いつ頃ともなくわが家へやって来るようになった。来ると必ず蝶の標本箱の前に立って「一番、二番」と十五の引き出しをあけて見てくれるのである。アゲハ、モンシロ、キチョウくらいしか見たことのないマコちゃんには乏しい標本も珍らしいのである。ことに五十頭ほどのタイワンの蝶は、その色、形ともに驚きであるらしく、ときどき友だちをつれて来て、わがものように自慢するのである。

「この蝶はみなおじさんがとったんだぞ」

「おじさんて、おまいの親類か」

「親類でのもかまんのだ……」

「この蝶はタイワンでとったんだぞ」

「タイワンでどこぞ」

「タイワンも知らんのか、タイワンいうたら外国よ」

「外国いうたらどちらぞ」

「外国いうたら遠いよその国よ」

汚れを知らない子供の口から出るこんなあどけないことばに、わたしは耳をかたむけるのである。

これらの子供を愛媛大学農学部昆虫研究室へ連れて行き、世界の蝶を見せてやれば、どんなによろこぶことかと思うが、また半面それに比べると、九牛の一毛にもおよばぬ、わたしの標本の評価が暴落するであろうと、思ったりしているのである。

再びたずねる飛騨高山

玉川 都夢 (松山)

旅の楽しみの一つに、その土地の味をたずねる喜びがあります。飛騨高山の味は、天領時代の格調高い山菜料理や精進料理など伝統的な本格料理と、家庭の味的な土の香りの高い、朴葉みそ、品漬、蕪漬や、わらび、ぜんまいなどの山野菜料理などがあります。

去年三月末六年間お世話になった第二の職場を退職するにあたって、なにか心に残るものがほしいと思いたって、ひとり訪ねた飛騨高山のあの静かな町や、温かい人情が忘れられず、御用納のすんだ二十七日の晩またまた家をとび出して雪の高山を再度訪ねることにしました。

下呂温泉あたりから降り出した新雪は高山の駅ではすでに二〇センチ程に積っていました。周囲の山は美しく雪化粧をし、遠くに聳える乗鞍、穂高、槍の連峰は白銀の鎧に威儀を正し遠来の旅人を迎えてくれました。

町の辻々にはみだらし団子の屋台店が醤油の香ばしい匂いを漂わせ、飛騨そばやごくのある地酒が旅のつかれを慰やしてくれま

す。菓子では塩せんべい、こくせんべい、げんこつなどの駄菓子や、三嶋豆、らくがん、飴菓子など、飛騨ならではの味を持つのもうれしい限りです。

また伝統の中に息づく手作りの美しさとしては、遠く奈良時代から平安時代にかけて、多くの飛騨の工匠たちが遠く都に召され、宮殿、社寺の造営にあたり、「飛騨のたくみ」

の技と心をほろぶことなく受け継がれている特産の春慶塗、一位一刀彫、一位細工、木製家具など、木の国飛騨の技を誇り、洪草焼、小糸焼、山田焼等の陶磁器はそれぞれの風格と親しみを覚える土地の味を出している風土の中に深く根ざし、守り伝えられたものの美しさは、飛騨高山のあの美しい思い出を私の心にいつまでも忘れることなく刻みつけてくれます。二度あることは三度の譬、これからも美しい飛騨の高山は私の心を誘惑することでしょう。

借りて穿く藁靴軽き初詣
お降りの傘借り歩く飛騨の町

俳句

花の山

横山蔵峰 (松山)

天守閣中に浮べる花の山
花の下一廻りして天守閣
抱く児の眼安けし花吹雪

白魚

大野峰生 (松山)

黒潮の引きゆく礁に海苔を掻く
若布干す浜に渦潮遠鳴来
白魚の魚紋かそけく潮上げ来

投稿規程

- 一 会員消息 四〇〇字以内
 - 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
 - 三 随筆、随想 六〇〇字以内
 - 原稿締切 五月十五日
- 原稿の取扱についてはお任せねがいます。

編集後記

○総需要抑制下の五十一年度恩給改善政府案は上薄下厚方式に改められ、扶助料の加算、最低保障額のアップ、八十歳以上の特別措置の七十歳までの拡大と高齢者への優遇が盛りこまれたことはまことに有難い。しかも実施時期の一か月繰り上げと喜ばしい限り、切に国会通過を祈ってやまない。

○会員消息はなつかしい。多数の方々のご投稿をお待しています。箇条書程度で(一)退職年次(二)現在何をしているか(三)家族構成(四)趣味(五)健康状態と健康方法(六)人生訓等、四〇〇字くらいまでハガキ投稿で結構。ご協力を乞う。

○今年には会員名簿の発行を目論んでいます。お手許の名簿の住所、職業等異動がある方は各県の会の事務所へご通報願います。

○紙数の都合で掲載が遅れた原稿もあります。お詫び致します。(玉川)

電友会四国連合会会報 第一四号
昭和五十一年四月一日発行
編集発行 電友会四国連合会
事務局 松山市一番町四丁目
四国電気通信局内
電話(〇八九九)三六一二〇二三
印刷 四国電話印刷株式会社